

特集「ソフトウェア工学」の編集にあたって

吉田 則裕^{1,a)}

「ソフトウェア工学」特集号をお届けする。ソフトウェア工学という研究分野では、理論から応用まで幅広い範囲で、ソフトウェアやソフトウェア開発の質の向上に資するような手法の開発や知見の抽出を行っている。ソフトウェアを取り巻く急激な環境の変化に追従しながら産業界の課題をタイムリーに取り上げ、その解決につなげるような工学的問題解決のアプローチだけでなく、未来のソフトウェア開発の基礎となるような、ソフトウェアやソフトウェア開発の理論を抽出する科学的なアプローチも重要となっている。

情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、シンポジウム、ワークショップ、研究発表会等を主宰し、ソフトウェア工学に携わる産学の研究者や、ソフトウェア開発に携わる技術者、実務者等へ広く参加を呼びかけ、互いの経験や知見を議論・共有する場をこれまで提供してきた。本特集号もこれらの活動の一環として企画したものである。

本特集号は、ソフトウェア工学に関連した研究開発全般について、最新の研究成果や開発事例に基づく知見等を幅広く掲載することを基本方針とした。さらに、通常の論文投稿だけでなく、ソフトウェア工学研究会主催のソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2021 (SES 2021) に投稿された論文を発展させて投稿することを推奨した。これにより、シンポジウムの査読結果が反映された質の高い論文を多く集め、論文誌を通じて優れた研究成果を社会へ迅速に発信することを目指した。このようなシンポジウムとの連携は、2011 年から継続して行っている取組みである。

本特集号には 15 編の論文投稿があり、ソフトウェア工学の専門家による厳正な査読と編集委員会での慎重な審査を経て、最終的に和文論文 8 編、英文論文 1 編の合計 9 編を採択した（採択率 60.0%）。編集委員会では情報処理学会の論文査読方針に沿い、改訂によって採録可能となる見込みのある論文に対しては可能な限り「条件付採録」を選択し、採録のための条件を明確に示すことで論文の質を高めるように努めた。また、惜しくも採録には至らなかった論文に対しても、今後の改訂の指針となるような査読コメ

ントを提示するよう努めた。コメントを参考に研究を発展させ、改訂・再投稿されることを期待している。

採録された論文は、ソフトウェア保守やバグ予測、コード検索、ソフトウェアテスト、ソフトウェア工学教育に関する優れた報告である。

最後に、本特集号にご投稿いただいた著者の皆様、COVID-19 流行による混乱の最中にもかかわらず丁寧な査読や議論にご尽力いただいた特集号編集委員と査読者の皆様、そして本特集号の機会を与えていただいた論文誌ジャーナル編集委員会に深く感謝する。

「ソフトウェア工学」特集号編集委員会

- 編集委員長

吉田則裕（名古屋大学）

- 編集委員（五十音順）

阿萬裕久（愛媛大学）、石尾 隆（奈良先端科学技術大学院大学）、石川冬樹（国立情報学研究所）、位野木万里（工学院大学）、伊原彰紀（和歌山大学）、鶴林尚靖（九州大学）、小形真平（信州大学）、岡野浩三（信州大学）、小川秀人（日立製作所）、亀井靖高（九州大学）、権藤克彦（東京工業大学）、斎藤 忍（日本電信電話）、沢田篤史（南山大学）、白銀純子（東京女子大学）、高田真吾（慶應義塾大学）、田原康之（電気通信大学）、丹野治門（日本電信電話）、角田雅照（近畿大学）、鄭 顕志（早稲田大学）、野田夏子（芝浦工業大学）、長谷川勇（スクウェア・エニックス）、林 晋平（東京工業大学）、肥後芳樹（大阪大学）、伏田享平（NTT）、本田 澄（大阪工業大学）、丸山勝久（立命館大学）、水野 修（京都工芸繊維大学）、門田暁人（岡山大学）、横川智教（岡山県立大学）、鷺崎弘宜（早稲田大学）

¹ 名古屋大学

Nagoya University, Nagoya, Aichi 464-8601, Japan

^{a)} n.yoshida@ieee.org